

続・ふるさとを こぼれ話

青木繁「わだつみのいるこの宮」制作100年 2月17日の松本清張

明治浪漫主義を代表する洋画家青木繁が町内(旧水橋村)東高橋叔父街にある恋人福田たねの生家^{おとしまち}に身を寄せ、青木の最大傑作「わだつみのいるこの宮」(国重要文化財、石橋美術館所蔵)を描いたのは、1907年(明治40年)1月から3月である。

今年^{おとしまち}は制作から100周年となる。これを記念して数回、福田たねや青木繁「わだつみのいるこの宮」にかかわりのある話題を取り上げる。

1981年(昭和56年)2月17日、作家の松本清張が芸術新潮に連載する「青木繁と坂本繁二郎」の取材のため、東高橋栄町を訪れた。ちなみに、青木と坂本は同郷同年で、ともに画家。才の青木、鈍の坂



▼「わだつみのいるこの宮」
▼清張の自画像絵皿



本とされ、ライバル・確執・愛憎のドラマがあった。

『清張日記』(朝日文庫)によると、取材当日は「朝大雪。一夜の変なり」。大雪で東北本線が不通のためか清張は、常磐線我孫子駅からタクシーで東高橋に入り、福田家、ロマンの碑「わだつみのいるこの宮」を制作した黒崎家を見て回った。松本は日記に次のとおり記している。

福田家について「軒の低い平屋。東側に倉庫のような木造二階屋あり。家屋は古し。福田家はこの街道筋で呉服屋を営んでいた。ロマンの碑について「五行

川は川幅約十メートル。橋の東袂に小径あり。踏めば、小さな台地に『青木繁福田たねロマンの碑』あり。青木の顔にはあまり似ず。五行川の別れは、博覧会栄冠をめざしての東京出発が、青木の身勝手による永遠の別離に変じたるなり。碑の云うが如き『ロマンの訣れ』ではない。

黒崎家について「紹介する人あつて、近くの豪農黒崎家の広間を借りて制作した。その黒崎家の大きな屋根と白い塀が田圃の中に目立つ」。

第34回

生涯学習課総合情報館推進係
☎028(677)2525

編集後記

□毎年、箱根駅伝で活躍する芳賀町出身のランナーを見てみると、自分のことのように嬉しくなります。

□中学駅伝も全国2位の好成績。数年後には箱根を賑わせてくれることでしょう。お正月の楽しみ、親戚一同応援したいと思います。

■2011年にはテレビ放送が完全デジタル化され、今までのアナログ波の放送が見られなくなりました。我が家でも一足先に対応しているテレビを購入、デジタルの美しさと画面の大きさにおどろいています。と言うのも、電気屋さんで並んでいると、大きさの感覚が麻痺します。部屋の大きさをよく考えて選べば……と反省しています。(ネタ)



Anas americana
(全長48.0mm)

ヒドリガモ(唐桶の溜は県内でも多い)に混じって少数が日本に飛来する。

日本ではめずらしいカモであり、本来はアメリカ大陸の方に渡来するが、たまたま繁殖する場所が北極海沿岸部の湿地であるため、両者が混雑して群れの中に入り込み、そのまま移動してくるケースが多い。

また両者が交配して、識別が困難な個体が発生する確率が高いのも特徴である。

雄は額から頭頂にかけて白く、目から後方にかけて青緑で、身全体に黒い小斑点がある。最大の特徴である目から後頭部側面にかけて緑色光沢の太い線がある。体は褐色で腹は白く下尾筒(尾羽付近)は黒く翼に白斑がある。

鳴き声はヒドリガモに似ている。あまり騒々しく鳴かない。

○カモ類のカウント数(平成19年1月15日現在)
唐桶の溜……655羽
給部の西入……872羽

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
- 苦情専用フリーダイヤル
☎0120(753)898

☎芳賀町の携帯サイトはコチラから➔



R2100
省紙率95%再生紙を使用しています



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
ESPA: 環境保護印刷推進協議会
http://www.espa.com